

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生命の尊厳」「豊かな老いと生きがい創りの喜び」「共に感謝の心」が私たちの理念の基幹である。特に「共に感謝の心」をもって環境の中で生じるあらゆる人間関係をいいものにするのが地域密着型サービスの重要なキーワードと考えている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化と浸透を図るため毎朝唱和を行っている。また、スタッフが交代で理念・方針・実務の心がまえに関する言葉を素読し、その人なりのひとことを添えるようにして、意識を高めるようにしている。これらのことによりスタッフ各自の理解度の個人差を埋めるための効果が認められるようになった。月初には施設長が理念に関する話をし、理解を深くする機会にしている。当施設にあっては「理念」を飾り物に留まらず、有言実行を旨としている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月の手作りカレンダーは理念が伝わるような施設長のオリジナルの絵とことばが描いてある。利用日のお知らせは当然だがご家族へ理念を伝えるためのツールとしても使っている。お茶会を毎月開催しており、その時に使うランチョンマットは間接的ではあるが施設の理念が伝わるようなデザインにしている。また、あらゆる機会をとらえて施設の方向性としての理念を利用者様のご家族はもちろんのこと地域の方々にお伝えするようにしている。	
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所隣と大変うまくいっている。お茶会の際、手作りのお料理やお菓子を届けてくださったり、収穫物を持ってきて下さったり、施設内の庭造りのアドバイスを下さったり、まさに地域密着型ならではの施設に成長してきたという感がある。交際範囲も少しずつ広がってきたが、あまり広範囲は考えておらず半径500mの圏内にとどめたい。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	川西小学校学区内の廃品回収時に日常から出るダンボールを計画的に収集しておき協力させていただいている。地域のお祭りや花市などでは利用者を暖かく迎え入れて下さっており、感謝している。その他の活動や行事にも積極的に参加したいのだが、組内に入っていないためどぶさらい活動など部分的になってしまっている。組内加入の申し込みはしてあるので、近い将来はもう少し地域に密着した日常的なお付き合いができるかと期待している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>自己評価及び外部評価の実施は主観性と客観性とのギャップを埋めるために大変有意義なものである。しかしながら職員の考え方や意見が反映されなければ効果は半減してしまうといっても過言ではない。自己評価では運営者、管理者、職員の考え方を発展的にまとめ、その内容を確認しながら外部評価ではそれらを客観的に評価するものである。自己評価は結果よりその過程が大変重要であると考えているので、特に職員の意見が出せる環境を作る努力をしている。 (そのように評価は有意義であることは認めるが費用負担が高額のため全面的には賛成しかねる。もう少し簡素化を図るなどして費用の低減を希望する。)</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議には市職員、域住民の代表者、有識者、全ご利用者様のご家族に案内を差し上げている。ご利用ご本人の参加も時々あり、歓迎している。外部評価の結果は当会議において開示し、提言、意見ができたものはできるだけ議題にするようにしている。推進会議の議事録は保管すると同時にご利用者様及びその家族、スタッフには希望があれば自由閲覧をさせている。閲覧によって建設的な意見を期待しているが実際はなかなかである。今後も推進会議での意見は施設の運営指針ならびにサービス向上に活かしていくつもりである。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>定期的な研修や会議には積極的に参加しており、必要に応じての情報交換や相談を行っている。特に市担当者とは行き来する機会を多く持って、サービスの向上に活かしている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>具体的な学ぶ機会は多くもっていないが、必要がある場合はアセスメントの結果、関係者と話し合うようにしている。また、必要な人に対して随時相談の門戸を開いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11 ○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	過去に社内会議で関連法を学ぶ機会を持った経緯がある。現在、すべての職員に知識として浸透しているとは思えないが、「虐待をしてはいけない。」という意識はしっかり持たせている。しかし、職員の入れ替えとうもあるので定期的にこの問題について注意をうながす必要があると考えている。夜間であっても2名の勤務者がいるこの施設ではありえないが、無意識に行ってしまう小さな準虐待の可能性は皆無とはいえないので、管理者および職員がお互いにそのようなことが起きないように注意をはらっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 ○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要があれば説明や話し合い、相談の機会を繰り返し行い、家族には必ず面談において理解納得を図るようにしている。また、できるだけ話し合いの場に利用者本人も同席する機会を1回以上持つように心掛けている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を受けた例はないが、意見があった場合は管理者または施設長が真摯にうけとめるつもりである。不満や苦情は職員が直接聞くことが多いが内容を朝昼のミーティングで検討分析し、適切な対応をするよう心掛けている。また、運営に反映すべき意見、不満、苦情があった場合は申し送りノート記入または社内報により全職員が周知できるようにしている。		
14 ○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご利用者様の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については機会を捉えて個々に報告をしている。特に健康状態の変化についてはその都度電話などで報告をしている。職員の異動に関しては、状況に合わせ報告するようにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情は例え誤解から生じたものであっても施設の栄養と捉え素直に聞くことにしている。しかしながら、これは適確かつ良好な対応が望まれるので受付窓口を統一し、管理者が受けるようにしている。窓口の統一については契約時に家族に説明させていただいている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に一度全体会議を開催し、運営上の問題点、改善点や職員の意見、提案を聞く機会を設けている。また、朝のミーティングでは前日および夜間の状況の申し送りをし、昼のミーティングではご利用者様の午前中の様子や問題点を報告し、話し合いをしている。運営者、管理者はその意見や提案をできるだけ反映させるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が本音で話すようになるまで気長に待つよう心掛けている。不安なこと、困っていること、求めていること等を総合的に傾聴し、できうるかぎり受け止め、信頼関係を築けるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項の初期の本人との信頼関係に記入したとおり、対家族でも同様に考えており、世間話を充分してから家族が本音で話す気持ちになるまで気長に待つよう心掛けている。利用者優先に考えざるを得ないこともあるが家族の生活環境や介護環境、家族の悩みや困っている点、介護について望んでいること等を総合的に傾聴し、家族との信頼関係が構築できるように努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去のサービス利用状況や現在の生活状況、介護状況、認知症の状態などを総合的にアセスメントして計画している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	小規模多機能型の例ではあるが給食サービスからスタートし、徐々に介護サービスを加えていきスムーズにいった成功例を持っているので、この成功例をグループホームでも活かそうとしている。家族の協力や理解が何より重要なポイントであるので、事前の話し合いや相談は時間をかけてゆっくり行うようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人とは向かい合せの関係でなく横並びの位置関係を保つようにしている。特に本人の話を傾聴することにより心の変化などを読み取る努力をしている。喜怒哀楽を共にできるような人間関係構築を目標にしている。利用者様の言葉の端はしに人生の先輩としての温蓄を感じることも多くあり、まさに学んだり支えあう関係を築いているといえる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が介護の喜怒哀楽を完全共有できたらすばらしいと思うが、それは理想であり完全共有は大変難しい。しかし、その理想を追うプロセスから道が開かれるのである。職員は利用者本人と対峙するのではなく並列にならぶイメージをもって介護にあたることを旨としている。体のぬくもりが感じられる距離を保ちながら話を傾聴し、心の変化などを読み取るようにしている。本人と家族が安心して生活できる環境づくりのために良好な人間関係を築くように努力している。		
29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	以前のご本人がどのような環境で暮らしてきたかを知ることにはこれからもよい関係を続けるためには重要なことである。本人と家族が談笑する機会をできるだけ多くもつことは本人がいつまでも家族の一員でいることの証にもなると考えている。そのために計画作成者も家庭や家族を含む環境の変化をできるかぎり把握する努力をしており、ミーティングなどで職員にその情報を的確に伝えるようにしている。		
30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人の面会は大歓迎で再度訪ねてきていただけるようにその都度お願いをしている。また、以前の生活の中で構築してきた交友関係などを交わされる会話の中から探り当てる努力をしている。利用者に季節の挨拶状や近況報告のハガキを馴染みの人や家族宛に書いていただいている。相手から返事がくると大変喜び、生き生きとする表情はこの支援の重要性をあらわしている。		
31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わり合い、支えあえる環境作りは利用者の性格や趣味等をできるだけ正確に把握するようにしている介護計画と実施の結果であると考えている。人と人は必ず何か共通するものがあるはずで実際の介護の中から常時模索している。接点をもてるかどうか必要に応じて声掛け誘導しながらシミュレーションし、互いに関わり合える環境を整えるようにしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事情があり利用施設が変わった場合であっても、ご家族から相談や近況報告の電話が入ったりすることがある。地域に根付いたサービスの提供で総合的に関わってきた結果であろうと考えている。今後もこの姿勢を保ちつづける所存である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、その都度細かいニーズとその変化の把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設をご家族が訪問された際に同席する機会を捉え、ご家族とご本人との会話などからより多くの情報を収集できるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様との会話などの中から様子観察を行い、現状の把握に努めている。	○  スタッフ個々が意識を高め、ご利用者様ひとりひとりと接する機会を多く持ち、様子観察などにより正確な現状の把握に努める。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族、職員など連携を密にして情報の交換や共有が図れるようにし、それぞれの意見やアイデアが反映されるような介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現場スタッフやご家族との話し合いなどにより、介護計画の振り返りを心がけ、現状に即した介護計画を作成している。	○  定期的にケアカンファレンス等を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	○	定期的にカンファレンスを開いて介護計画の見直しをしていく。
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族や本人に関係する介護関係者が情報交換と十分に話し合いを持った上で、最良の選択ができるようにしている。住み替えを決定するにあたって、利用者優先かどうか、本人の環境変化に対する適応力が残存しているかどうかを重要な留意点としている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報記録された物は施錠可能なロッカーで管理しており、個人情報ならびに介護に関するプライバシーの門外不出を旨としている。言葉や対応については介護理念に従い、尊敬の念を忘れず相手の立場に立って行うことを心がけている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>○</p> <p>アセスメントを充実させ本人本位の支援を心がけ、会話もひとりひとりに合わせた理解しやすい言葉を使い、個々のニーズを引き出せるような工夫をしている。そうすることによって本人自らがものごとを決めたり、納得の上で生活できるように支援している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の個人的な希望や意思をよく読み取る努力をする。一部心理学的な知識が必要な場合があるので、掘り下げた勉強の機会を作る。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>○</p> <p>小規模多機能型と併設しているデメリットとメリットがあるが社会性をもたせる意味においては大きなメリットであると考えている。しかし、プライバシーを優先したい利用者には集団的な活動を強要せず、個々の希望する生活スタイルを尊重している。特にレクリエーションに関しても個別化を図っており、ひとりひとりが生活そのものを楽しく張りをもてるようにすることを目標にしている。ケアプラン作成においても個々に必要なケア内容になるように配慮して取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>個人的な希望が出る時のタイミングが入浴時間などに当たったり、催しものの準備中に散歩のリクエストがあったりする場合があるので、そのようなときのよい対処方法を全員で工夫し、情報ノートなどにまとめる。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容、理容については本人の希望、家族の希望を優先している。特に希望がない場合は1ヶ月1度の出張理容を利用している。この項目の問いは本人のレベルにも関係し、その人らしい身だしなみとおしゃれの判断は素人には大変難しい。美容、理容については清潔感と客観的にその人に似合うと感じられるような処理をしていただけるよう助言させていただいている。衣服については、ファッション性より機能性と洗濯しやすさを優先していただいている。希望があれば本人、家族と相談して近所にお店に散歩方々一緒に出かけるような工夫をしている。おしゃれやみだしなみは自己意識の重要な部分でもあるので、その芽は摘まないようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの好みや摂取可能な食物、料理法などをリサーチし、できるだけそれぞれに合った食卓にするようにしている。季節折々の野菜を庭先の畑から選んで採っていただいたり、竹の子の皮むき、じゃがいも洗いなどその都度できる範囲の下準備も楽しみながらしていただいている。食後の片付けも参加意識を持たせる意味で各人の力を考えながら、食器運び、食器拭き、テーブル拭きを分担して行っている。また、相性も考慮し、お手伝いの種類や席順などにも気を配るようにしている。		
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこをたしなむ利用者は現在はいない。仮に希望があった場合は安全と本人の健康状態を考慮し不都合がない限り提供をしていく考えである。おやつや嗜好品はできるだけ各自の好みに合わせて準備しているが、個人的に購入したものについては他の利用者の迷惑にならない範囲で楽しんでいただいている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者ひとりひとりのパターンや力をリサーチし、職員がごく自然に排泄を促すことばをかけて失敗のないように誘導介助している。特に夜間や明け方に失敗しがちの方が介助のタイミングが合い成功した時には担当職員と共に喜ぶなどをして自信をつけていただく工夫をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調にあわせた入浴と共に就寝前に入浴が習慣となっているご利用者様には極力そのようにしている。冬季に限るが入浴予定でない日には足浴を楽しんでもらうこともある。	○	自宅生活の習慣に合わせてられるように、夜間の入浴が可能になる工夫をしている。
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣があるかたには自由に昼寝をしていただくようにしている。自室に戻る方もいれば椅子に掛けたまま傾眠する方もいる。反対に習慣がない方には無理強いせず自由に午後のひとときを過ごしていただいている。就寝の時間もその人なりの時間に任せているが概ね20時過ぎには自室に戻っている。就寝までの自室での過ごし方はそれぞれだが21時過ぎには声を掛けて休んでいただくようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりのできる力や生活歴を活かした支援を心がけている。畑仕事や除草が楽しみや気晴らしになっている利用者もいる。また、食事の後片付けのお手伝いに役割を意識している人もあり、会話の中から役割が果たせる喜びが伝わることがある。利用者と職員の共同作業として行うものには張り合いや喜びにつながるものもあり、できるだけ個性を生かした楽しみ方になるように工夫している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	緊急時の対応を各スタッフが理解し必要に応じて迅速な対応を行える。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	月1回家族を含めた面談の他、ひとりひとりに起き得るリスクについて、必要の範囲で連絡相談している。また、状態の急変があった場合は家族に連絡するとともに担当医や協力医と連携をとりながら随時方向性の検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の利用者様のベスト状態や日ごろの体調の様子をできるだけ細かく把握するようにしている。特に朝の健康チェック(血圧、体温、脈拍)には注意を払って、体調の変化や異変を速やかにチェックできるようにしている。また、大きな変化や異変は家族、担当医と情報交換すると共に情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の看護師が処方された薬の説明書等を各個々のファイルに綴じ込み管理している。ひとりひとりが服薬されている薬の目的、副作用、用法、用量について全職員が理解しておくために昼のミーティングなどで看護師から説明をする機会をつくっている。服薬確認についても看護師の指示に従い、確実に服薬されたかどうかチェックを行っている。	○	全職員はご利用者が服薬されている薬の名前を100%覚え、目的、副作用、用法、用量についても理解できるようにする。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材調達担当者は食物繊維を含んだ食材をバランスよく摂取していただけるよう食材選びをしている。また、スタッフは入浴、散歩、外出、野外活動の後に水分を十分に取るように気を配っている。また、食前に無理のない体操をしたり、自力歩行を継続したりして身体を動かすよう働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	上手に口腔ケアができない利用者様には時間をかけても自力で口腔ケアができるよう気長に支援、また、各自の状態に合ったケアをスタッフが声掛け誘導、介助をすることで食後口腔内に残渣物を残さず清潔を保てるように支援している。	○	認知症状のある人への対応が困難な時があり、時間をずらしたり、場所をかえたり、対応者を変えるなどの工夫により確実に定期的な口腔ケアが出来るようにする。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材調達担当者がメニューを決め、個々の体調に合わせた調理、栄養バランスのために1ヶ月の献立を作成している。また、配膳の際、食べる量の調整をしたり、状態の変化に応じて随時料理の内容を変更している。食事の時の水分の補給は料理内容によって若干変更があるが基本的には食事の前後に湯のみ一杯程度のお茶をだしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザに関して屋外から室内に入る時は、うがい、手洗いを徹底して励行している。万が一、感染症が発生した場合は家族に通達し、医療機関と連携を図れるようにしている。感染症に関する勉強会は看護師を中心にこまめに行っており、スタッフ全員が共通の知識をもてるようにしている。また、感染症対策マニュアルを作成して実際に備えている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に関わる職員、利用者は手洗いと消毒を忘れず励行している。台所の中では専用のエプロンと履物の使用している。食卓として使うテーブルはその都度アルコール消毒をしている。食後の食器後片付けに携わる利用者は必ず手指をアルコール消毒をしていただくようにしている。食材は必要に応じて購入し、新鮮なうちに調理するように心がけており、冷凍食品は全く使用していない。さしみ等の生食は基本的に避けている。		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	あえて庭はコンクリートや舗装をせず地面のままにしてある。庭の中央に古い落葉樹を移植し、施設のシンボリックにしつらえ、一般家庭にありそうな親しみやすい雰囲気をつくっている。藤棚、菜園、花壇を作ったり、フェンスに沿って花をうえたり、通りすがりの人も楽しんでいただけるように工夫している。利用者は中からも眺めることができ、自由に庭を散歩しながら楽しむことができる。玄関には利用者の作品の生け花が飾られており、明るい雰囲気をもっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は利用者負担のかからない明るさを工夫している。外からの雑音はほとんどない。館内にあってはテレビの音も必要以上のボリュームは上げないようにしている。壁のスペースを利用し、利用者の習字の作品をはったり、全員で創作した貼り絵の作品を飾ったりしている。また、利用者へ生け花の先生がおり、常時作品が飾ってあるので、季節感を楽しめると同時に暖かく親しみやすいスペースが確保されている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子が何箇所か配置されており利用者同士でくつろげる場所が確保されている。また、和室もあり、昼寝やひとりで静かに食事をする時に有効に利用している。玄関スペースは広く日中の日当たりが良いので応接セットなどを置くことでサブパブリックスペースとして利用者の人気が高い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と相談の上、本人の状態によって清潔を保つことを優先している居室もあるが、基本的にはできるだけ利用者の以前の生活に馴染んだものを使っていただくようにして、居心地のよい生活空間を提供できるよう心がけている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>外気温やホールの温度にあわせ居室温度が極端な差異がでないように注意を払い、乾燥時期の湿度管理はより以上に気配りを行っている。また、居室は24時間換気をしているが少なくとも一日一度は掃除と同時に窓を開け、換気を行うようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや廊下到手摺をつけ、床をフラットにするなどしてひとりひとりの身体機能を活かした安全かつ生活が自立できるように工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>お風呂やトイレの出入り口に大きな暖簾を下げ、施設内の設備の場所をわかりやすく表示している。また、自室の出入り口には大きな字と目印のものを貼るなどして混乱を防ぐようにしている。ホールと居室エリアの区切りとして藤製のロッカーを置き、生け花を飾るなどをしてアクセントにしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭の散歩や菜園づくりなどの活動がいつでもできるようになっている。ウッドデッキは庭を眺めたり、洗濯物を干したり、午後のお茶タイムに有効利用している。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)